

平成 28 (2016) 年度 人権尊重のまちづくりに向けた意識実態調査 — 三木市男女共同参画に関する市民意識調査報告書 — ■ 概 要 版 ■

三木市では、一人一人の人権が尊重される明るく住みよいまちづくりを進めるため、平成 13 年 (2001) 1 月に「三木市人権尊重のまちづくり条例」を施行し、各種団体や市民の皆様とともに差別をなくすためのさまざまな取組を進めています。

しかしながら、少子高齢化、情報社会の進展やグローバル化など社会環境の変化に伴い、差別や人権侵害などの問題も時代とともに変わってきています。このたび市では、これらの変化に対応した市民意識の推移を把握し、今後の人権施策推進のため、課題を明らかにすることを目的に「三木市男女共同参画に関する市民意識調査」を実施しました。

今回の調査結果を平成 30 (2018) 年度から 7 年間を目標とした「三木市男女共同参画プラン」の策定に反映させるとともに、引き続き男女共同参画社会の実現に向けて進めてまいります。

この概要版では、調査の一部を紹介します。

調査内容

調査票は、次の事項で構成しています。

- ・ 家庭生活
- ・ 女性の健康と権利
- ・ 男女平等に対する考え方
- ・ 就労
- ・ 人権の尊重
- ・ 地域や市の施策などへの女性のかかわり方
- ・ 男女共同参画社会の実現に向けた施策

■ 調査対象 市内在住の満 20 歳以上の男女 2,000 人 (外国人を含む)

■ 抽出方法 無作為抽出

■ 調査方法 郵送による配付及び回収

■ 調査基準日 平成 28 (2016) 年 9 月 1 日

■ 調査期間 平成 28 (2016) 年 9 月 9 日
～ 9 月 26 日

※文中に「前回調査」との比較をしていますが、「前回」とは平成 22 (2010) 年度の調査になります。
※複数回答を求めた設問や、小数点以下第 2 位で四捨五入したことにより、比率の合計が 100% ではない場合があります。

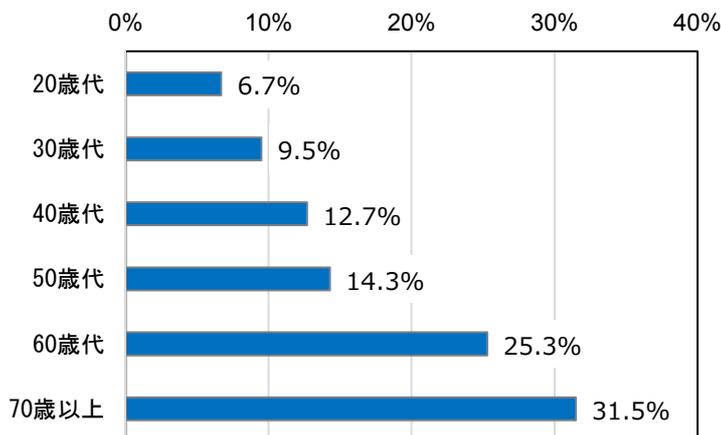
回収結果

配布数	有効回答数	有効回答率
2,000	912	45.6%

回答者の属性

回答者の 57.7% が「女性」、42.0% が「男性」で、「性別に違和を感じる人」が 0.1%、「無回答」が 0.2% です。年齢別では「70 歳以上」(31.5%) が最も多く、次に「60 歳代」(25.3%) が続き、50 歳代以上で全体の 70% 以上を占めています。

回答者の年齢別比率



1 家庭生活について

■夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである
 という設問に対し、賛成は32.3%、反対は46.4%となっています。【グラフ1】

■少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を
 持たず家にいるのが望ましい

という設問に対し、賛成は65.4%、反対は16.6%。年齢別にみると、子育て期に該当する30歳代・40歳代で反対が多くなっています。【グラフ2】

どちらも年齢、性別による大きな違いはありませんが、2つの質問に対する考え方は矛盾する結果となっています。

■介護が必要になった時、主にどなたに介護して
 もらいたいと思いますか

という設問に対し、男性は、「配偶者」58.0%、「介護保険サービス」57.4%となっていますが、女性は、「介護保険サービス」71.5%、「配偶者」35.9%となっており、性別による違いがみられます。【グラフ3】

また、前回調査と比較すると、「配偶者」「子ども」が減少し、「介護保険サービス」が増加しています。

2 男女平等に対する考えについて

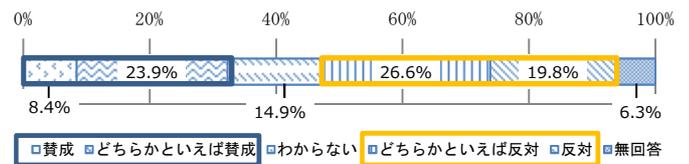
■現在の日本社会は、どの程度、男女が平等に
 なっていると思いますか

という設問に対し、「学校教育の場で」と「地域活動の場で」では、「平等である」が最も高くなっています。それ以外では、「女性が優遇されている」は1.5%から6.0%であるのに対し、「男性が優遇されている」は32.9%から59.8%となっています。

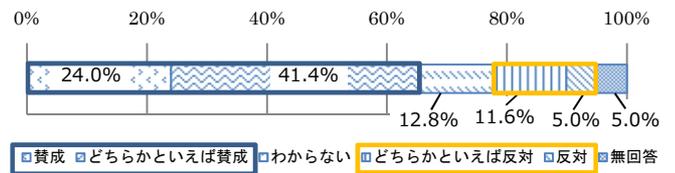
前回調査と比較すると、「職場で」と「地域活動の場で」では、「男性が優遇されている」が減少していますが、「法律や制度の上で」では、「女性が優遇されている」が減少しています。

図1 家庭生活について

【グラフ1】夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである。



【グラフ2】少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を
 持たず家にいるのが望ましい。



【グラフ3】介護が必要になった時、主にどなたに介護して
 もらいたいと思いますか。

※複数回答あり
 n=912

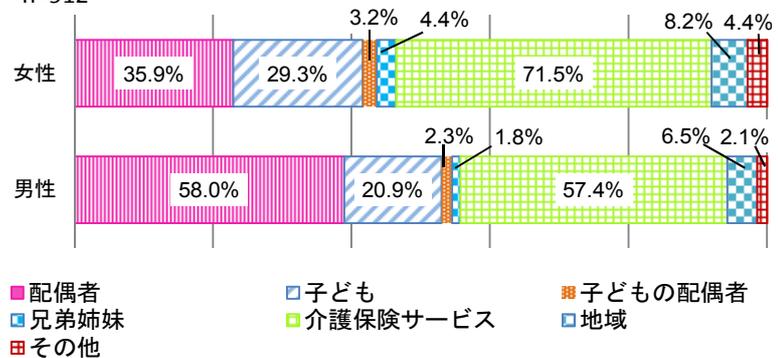
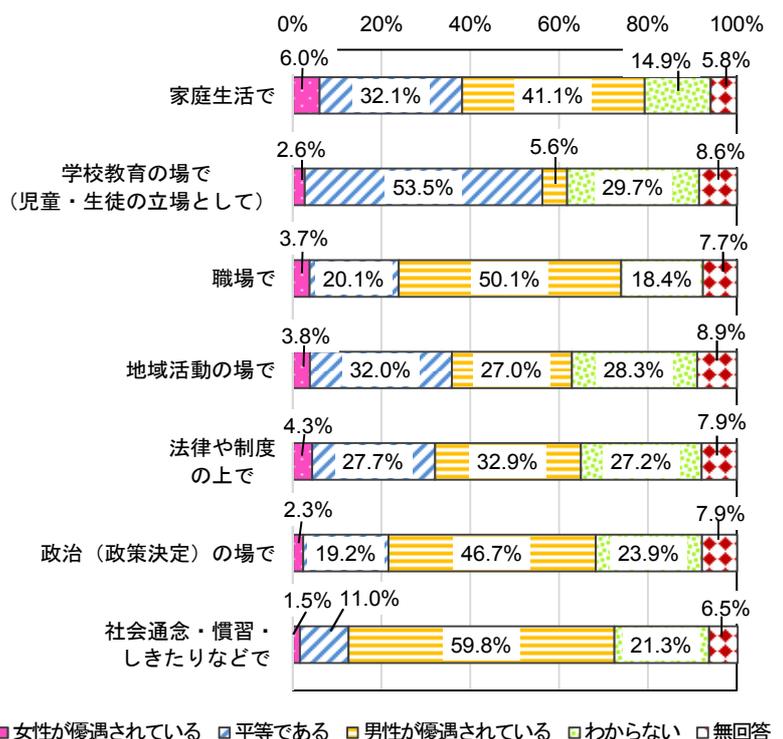


図2-① 男女平等に対する考えについて



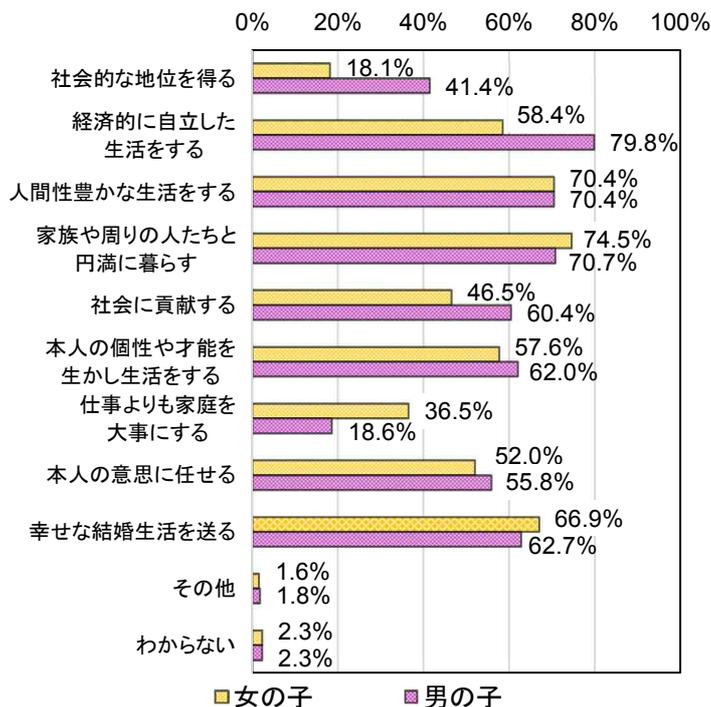
■あなたに15歳の子どもがいるとしたら、将来どのような生き方をしてほしいと思いますか

という設問に対し、女の子で最も高いのは「家族や周りの人たちと円満に暮らす」で、次いで「人間性豊かな生活をする」「幸せな結婚生活を送る」となっています。

男の子で最も高いのは「経済的に自立した生活をする」で、次いで「家族や周りの人たちと円満に暮らす」「人間性豊かな生活をする」となっています。

また、「仕事よりも家族を大切にする」は、女の子は36.5%、男の子は18.6%と約2倍多く、「社会的な地位を得る」では、女の子は18.1%、男の子は41.4%と約2.3倍、男の子の方が多くなっています。

図2-② 子どもに将来どのような生き方をしてほしいか



■「女はつらい」「男はつらい」と感じる(思う)のは、どんな場合ですか。また、そのことについてどうすればいいと思いますか。

という設問に対し、「女はつらい」と感じる最も高い項目は「家事、育児、介護の負担が大きい」で、次いで「経済的な自立が難しい」となっています。一方で、「男はつらい」と感じる最も高い項目は「仕事の責任が大きい、仕事が出来て当たり前と言われる」で、次いで「男だからと頑張ることを強要される」「家族と共に過ごせる時間が少ない」となっています。

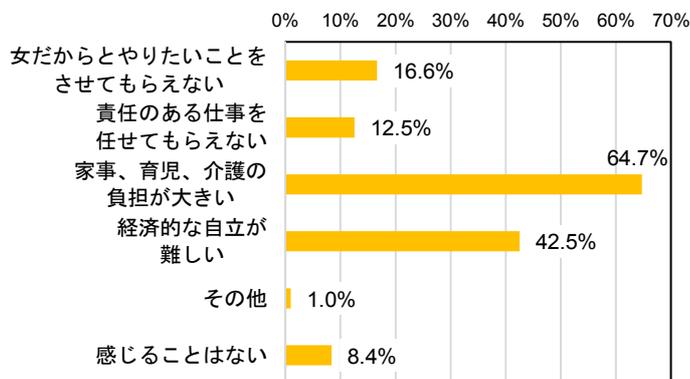
経済的な自立は難しく「女はつらい」と感じている人が42.5%で、同じく4割の人は女の子どもに「自立した生活」を期待していないこととなります。(図2-②)

また、「どうすればいいと思うか」について、「このままでいい」「変える必要はまったくない」が女性は10%前後、男性は15%前後となっています。

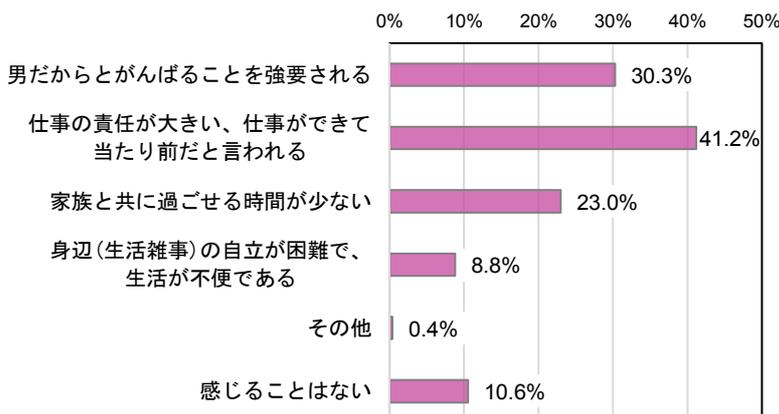
図2-③ 「女はつらい」「男はつらい」と感じること

※男女問わず、どちらの設問にも回答いただいた結果です。

「女はつらい」と感じる場合(思う)



「男はつらい」と感じる場合(思う)



3 人権の尊重について

■職場や地域社会、学校などで次のようなことがあった場合、セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）といえると思いますか。

という設問に対し、「地位や権限を利用して性的な関係を迫る」「身体をさわったり、抱きつく」「嫌がっているのに性に関する話をする」は60%を超えています。『『まだ結婚しないの』『子どもはまだ』とたびたび聞く』『女のくせに』『男のくせに』など、非難する』『宴会などで女性に接待させる』『職場で女性だけにお茶くみを要求する』では50%未満となっています。

また、経験がある方で最も高いのは、「職場で女性だけにお茶くみを要求する」で、女性が29.7%、男性が12.5%となっており、次いで「宴会などで女性に接待させる」が、女性が21.9%、男性が12.5%となっています。

■配偶者や恋人から、次のような行為をされた経験がありますか。

という設問に対し、「何度もあった」は「どなられたり、ののしられたりする」が8.2%と最も高く、次いで「何を言っても無視される」が5.2%となっています。

また、「身体的暴力をふるわれる」は「何度もあった」と「1,2度あった」の合計が10.6%、「包丁などの刃物を突き付けておどされる」は「何度もあった」と「1,2度あった」の合計が1.1%となっています。

■全問で、「何度もあった」「1,2度あった」に○をつけられた方に限った回答で、そのような経験をされたとき、誰か（どこか）に相談されましたか。

という設問に対し、相談先では「友人・知人」が19.1%と最も高く、次いで「家族や親戚」が14.5%となっています。専門の相談機関である「DV相談室」へ相談した人は1.5%にとどまっています。

また、約7割の人が、誰にも相談しておらず、その理由は、「相談するほどのことでもないと思った」が47.3%と最も高く、次いで「自分も悪いと思い相談しなかった」が19.1%となっています。

図3-① セクシュアル・ハラスメントについて

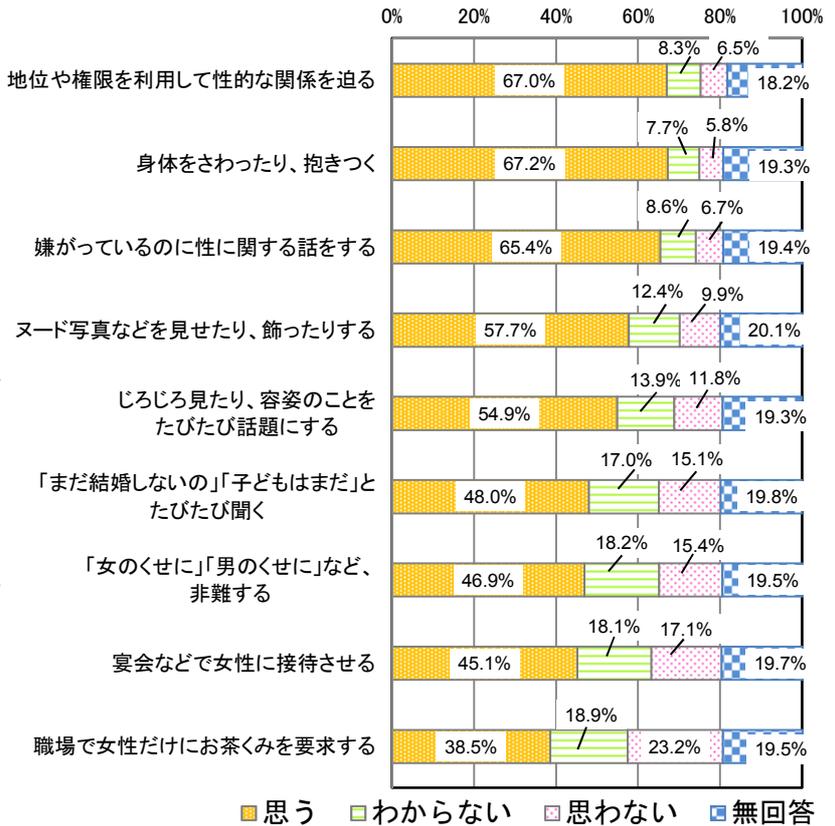


図3-② ドメスティック・バイオレンス(DV)について

